



上海国際少年児童文化芸術祭
開会式「さくら・さくら」

社団法人長崎民謡舞踊連盟
民舞の集い

2011.12.1 第40号

次の世代に残して欲しい日本の踊り

理事長 石橋輝夫

今年も七月二十九日から八月五日まで、十八名の子供たちとともに上海国際少年児童文化芸術祭に参加するために上海に一週間行ってきました。今年は、昨年上海で国際博覧会が開催されたため、一年遅れの開催であったけれど、すばらしい大会であったことは事実である。しかし、時代の変革とともに世代交代をしみじみ感じさせられる年でもあった。

中国側の役員も大半が変わり、長崎県から行った子供たちは一回目（一九九四年）からの参加ということもあって、団長会議でも大変日本を大切にしてくれた。十八年も経つと一回目・二回目に参加した子供たちが母親となり、その子供たちが今回四名も参加した。こうした世代交代が、私たちが意図する民謡を世界各国の人たちに紹介できることは、何より嬉しいことであった。

中国側でも私たち長崎県の子ムが参加することに気を遣い、開会式に富士山と桜の花の絵をパックに使い、その前で誇らしげに踊る小さい子供たちの姿を見るとき、何ともいえない感動を覚えた。富士山と桜の花の絵が出されると観客席から大きな歓声があがった。やはり日本人であって良かったと感慨を覚える一コマであった。高齢化のためにめっきり少なくなつた若いお母さんたちに、日本の踊りを誇りを持って踊って欲しいという気持ちで、ぜひこうした場面も見せたかった今回の上海国際少年児童文化芸術祭参加であった。